

だ い に き み つ け え き し ゅ う へ ん

第2期見附駅周辺地区

(新潟県見附市)

- 計 画 期 間 令和元年度～令和5年度
- 面 積 52.3ha
- 交付対象事業費 1,553.0百万円
- 市人口 39,315人

ポイント

駅前機能の強化とにぎわいの創出

地区概要

交通結節点であり交流拠点でもある見附駅前広場を整備することで、交通渋滞の解消とにぎわいの創出を図る。

目 標

- ・見附市の魅力の1つである「通勤・通学の利便性」の更なる向上
- ・朝夕の駅周辺の混雑解消と歩行者等の安全の確保
- ・駅周辺を拠点とした多世代の交流と賑わいの創出

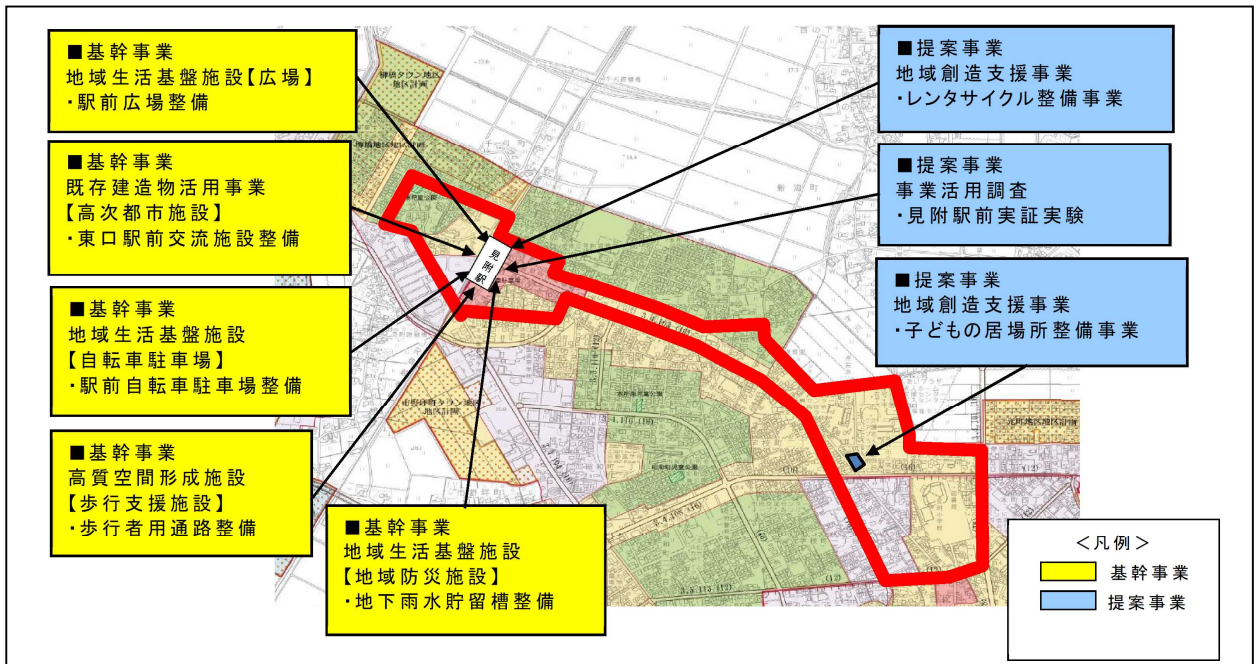
指 標

見附駅前の再整備によりどれだけ利便性が向上したかを把握する指標として、市民アンケートの満足度の割合等を指標として設定した。

市民アンケートの満足度	16.7% (H28)	→	32.7% (R6)
駅前広場の混雑度の改善	15台 (H30)	→	0台 (R6)
要支援・要介護認定率	17.1% (H29)	→	18.9% (R6)
コミュニティバス利用者数	161,458人/年 (H29)	→	200,000人/年 (R6)
子どもが遊べる屋内施設の充実 (※不足を指摘する回答)	647件 (R1)	→	300件 (R6)

事業内容

- 基幹事業 (1,308.0百万円) → 地域生活基盤施設 (広場 A=4610 m²、自転車駐輪場 A=900 m²、地下雨水貯留槽 V=530 m³)、高質空間形成施設 (歩行者用通路 A=1290 m²)、既存建造物活用事業 (駅前交流施設 A=470 m²)
- 提案事業 (245.0百万円) → 地域創造支援事業 (レンタサイクル整備、子どもの居場所整備)、事業活用調査 (見附駅前実証実験)



地区の現況と課題

見附駅周辺地区は、見附市唯一の鉄道駅を有する地区として、通勤や通学での利用者が多い地区であり、駅や国道 8 号への良好なアクセス性を背景に近年人口・世帯数ともに増加する傾向にある。

そのため、朝夕のピーク時には当該地域を中心に混雑が発生し、歩行者等の安全確保が課題となる一方で、通勤通学以外の時間帯は閑散とし、「見附市の玄関口」としてふさわしい魅力的な空間づくりや人々の交流を促進させる様な機能に乏しい状況となっている。

このような背景を踏まえ、駅前ロータリーの整備を通じ、公共交通の利便性を高め交通動線の明確化により交通渋滞の解消を図ると共に、交流広場等のにぎわいのための空間整備により、市内外からの交流を促進させ、当該地域のにぎわいを創出する必要がある。



▲朝夕のロータリー内の混雑



▲閑散とした駅前

提案事業の特徴

レンタサイクル整備事業

レンタサイクルの利便性を高めるため、スマートキー対応のレンタサイクルシステムを導入する。

見附駅前実証実験

駅周辺地域の活性化やにぎわい創出に関心がある高校生や大学生、市民や地元企業等が参加する官民連携の組織「つかう会議」を設置し、駅周辺の利活用を検討するもの。

また社会実験を通じて市民への駅周辺再整備計画に関する PR を図り、理解と関心を高めていく。



▲つかう会議の様子

子どもの居場所整備事業

多世代の交流と賑わいを創出するため、空き店舗を活用した子どもの居場所を整備する。

計画策定プロセス

見附駅周辺まちづくり協議会

見附駅周辺のまちづくりについて検討するため、公募による市民や地元町内会、企業関係者、学識者等からなる「見附駅周辺まちづくり協議会」を 4 回にわたり開催し、駅周辺再整備における整備方針や計画をとりまとめ、「見附駅周辺整備基本計画」を策定した。この基本計画を元に、都市再生整備計画の立案を行った。



▲まちづくり協議会の様子